

(別紙 10)

宮城県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る評価報告（出没防止対策事業）

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

【事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況】

対象地域の選定は今後有識者会議等で行うが、候補地については、県内でクマの目撃等件数が非常に多く、市街地等での目撃も頻発している地域とすることを想定している。

【課題等】

地域住民が主体的に被害対策を実施するにあたり、地域の実情に応じた効果的な被害対策の手法の確立や有効事例の普及が課題となっている

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和 6 年 1 0 月～令和 7 年 3 月
場所	県内一円（モデル地域を選定し実施）
目的・目標	事業実施区域における出没リスクの軽減及び目撃等件数の減少
内容	県内にクマ対策モデル地域を設定し、対象地域において、環境点検・出没抑制対策（緩衝帯の整備・誘引物除去）、地域住民等を対象とした研修会等から構成される試験実証事業を実施するもの。
方法	環境点検・出没抑制対策（緩衝帯の整備・誘引物除去）、研修会
評価方法	事業実施後の人身被害発生状況や目撃等件数の推移等
事業費とその算出方法	5, 5 0 0 千円 事業費は、緩衝帯整備や誘引物除去に必要な経費、対策の効果検証のためのカメラトラップ調査、研修会の開催経費等を計上。
備考	

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

県内にクマ対策モデル地域を設定し、対象地域において、環境点検・出没抑制対策（緩衝帯の整備・誘引物除去）、地域住民等を対象とした研修会等から構成される試験実証事業を実施した。

地域住民と合意の得られた誘引木を伐採し、伐採前後での出没を確認したところ、両方で確認されなかった。伐採後にクマが映らなかったことは誘引木伐採の効果だった可能性があるものの、令和 6 年度は山の稔りが良く、里地へのクマの出没自体が少

なかったこと、業務実施時期と里地へのクマの出没が多い時期とが一致していなかったことも原因として考えうる。今後は事業実施時期を早めることで、より良い効果検証を行うことで改善することとしたい。

注１：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注２：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注３：注１による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

注１：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注２：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。